

2025年度第2回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日時：2026年1月29日（木） 午前10時00分

■会場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内容：

1. 報告事項

(1) 2025年度後半期の事業の振り返りと総括について

・展示事業

(資料1)

・普及事業

(資料2)

(2) 2025年度美術資料の収集状況について

(資料3)

(3) 2025年度第27回ゆうゆう版画美術館まつり実施報告について

(資料4)

2. 審議事項

(1) 2026年度事業計画について

・展示事業

(資料5)

・普及事業

(資料6)

3. その他

■出席委員： 諸川 春樹、三上 豊、降旗 千賀子、生嶋 順理、
・岩崎 直美、高橋 健志、岡野 美紀子（敬称略）

■出席者： 町田市文化スポーツ振興部 老沼部長、
町田市立国際版画美術館 大久保館長
町田市文化スポーツ振興部美術館課 野澤課長
齊藤担当課長、藤村係長（版画担当）
森係長（管理担当）、西（管理担当・書記）

■会議録（要約）

○開会の宣言（町田市立国際版画美術館課 課長）

○町田市文化スポーツ振興部長挨拶

○館長挨拶（町田市立国際版画美術館 館長）

1. 報告事項

(1) 2025年度後半期の事業の振り返りと総括について

○資料1及び資料2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

企画展「版画ってアートなの？」は、面白いタイトルだと思った。実用品と美術品の差を見つけられるような企画で、来館者の感想を見ても「こういうものも美術なんだ」という声が多く、意図がうまく伝わっていたようだ。今後は美術品をつくらしている作家だけでなく、例えば市内で実用品を作っている方を招いて話を伺うなど、普段美術鑑賞をされない方にも、そういった話を聞いてもらおうと、興味深く感じられると思う。今回の企画の内容自体がとても工夫されていたため、そういったアイディアも浮かんだ。

委員

企画展「版画ってアートなの？」は面白い企画だったが、やはり従来の版画美術館の展示がベースになりすぎていて、「歴史」に引きずられてしまっているように感じた。「美術館に展示されているから美術作品なのだ」という私たちの常識を揺さぶるような問いかけがもっとあっても良かったと思う。

普及事業について、夏期子ども講座活動報告書の冊子「版画で作る自分ワールド！」は非常に良い取り組みだ。冊子を作成した場合、その冊子をどう発信し、どこに届けるかということも重要である。最終的にどこに届くかを考えてつくとよい。

委員

普及事業について、高ヶ坂小学校の4年生が大変お世話になった。大河ドラマ「べらぼう」の影響や、事前に図工で多色刷りを体験していたこともあり、子供たちが興味を持って参加できた。今回は動画の活用や、バレンやサメの皮でできた道具などに直接触れる機会を設けてもらったことが非常に効果的で、子供たちからは「もう帰るの」と惜しむ声が出るほど有意義な時間となった。高ヶ坂小学校は徒歩圏内だが、遠方の学校はバスの確保や費用の負担が大きく、参加が難しい現状がある。この素晴らしい体験を他の学校にも普及できる方法を検討してほしい。学芸員に気軽に質問でき、知識の深さに触れられたことも大変ありがたかった。

委員

企画展の広報物における著作権について、著作権料は発生したのか。

事務局

発生している。作品によっては、作者のご厚意により無償で掲載したものもある。

委員

展覧会の報告書について「反省点」と書いてあるが、いいことしか書かれていないことが気になった。特に今回の展覧会の試みは版画美術館では初めてだったと思う。

初めての試みであれば、学芸員の間でも様々な意見があったはずであり、次につながるような建設的な課題というものがもう少し記載されていてもいいと思う。また、子供向けの解説シートが大人にも好評だという報告はよくあるが、最初から子供向けと限定せず、幅広い年齢層に訴えられるような解説というのはできるはずである。今後こういう展覧会をシリーズでやるとしたら、検討いただきたい。

版画美術館は、普及事業と、展覧会事業での普及事業と二つあるが、両方とも教育普及事業であり、そのつながりというものがもう少し見えてくるとよいのではないかと思う。教育普及活動について、以前は「教育」や「エデュケーション」という言葉が並んでいたが、最近は海外や先駆的な美術館の多くで「ラーニング」という言葉が使われていて、少しずつ考え方も変わってきている。そうしたことも踏まえて、40周年に向けて、一体的に考えていく必要があるのではないかと思う。

委員

小学校の教育研究会との連携は素晴らしい。中学校の研究会でも活用できるよう、校長先生方にも話をしていきたい。中学校ではキャリア教育を行っているが、例えば美術に興味を持つ中学生も多く、学芸員がどのような職業なのか知りたい生徒もいる。自校では、中学1年生を対象としたキャリア教育で「ゲストティーチャー」として、調理師専門学校の講師や郵便局長、助産師など、多様な方々を招く機会を設けている。そうした方法で、学芸員について生徒たちへアプローチすることも可能ではないかと考えた。

(2) 2025年度美術資料の収集状況について

○資料3について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

寄贈作品が相当数あるようだが、これは大変喜ばしいことと考えてよいか。

事務局

当館のコレクションは3万点を超えており、それを補完する形での寄贈の受け入れが最近は増えている。新規で未所蔵の作家の作品を受け入れる際、ご遺族や作家から全点の受け入れを希望されることもある。しかし、それを当館で受け入れて整理し、かつ活用していくことを踏まえると、すべてを受け入れるのは難しく、希望に沿えない場合もある。正直に申し上げて、うれしいこともあれば大変なところもある。これは美術館が寄贈を受け入れる際のジレンマとして常にある。今後もケースバイケースで学芸員内で相談しながら取り組んでいく。

委員

寄贈の動機には、どのような事情や事例があるのか伺いたい。

事務局

寄贈の動機は多様で、コレクターの方からはもちろん、作家のご遺族からというものもある。また、家に飾ってあったがどうしたらいいかわからなくなった、というような相談も多く、意外にその中に面白い作品があったりする。そのため、まずは一度お話を伺って作品の画像などを見せていただいた上で判断することが多くなっている。

(3) 2025年度第27回ゆうゆう版画美術館まつり実施報告について

○資料4について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

まつりの共催団体である友の会との連携はうまくいっているか。

事務局

友の会は、特に歴史があるというところを大事にしながら運営している団体だが、会員の年齢層が上がり、次世代にどうつなぐかが課題となっている。この先、版画美術館の改修工事などを絡めて、どういう形で今までの歴史を伝承していったらいいかといったことを調整し、提言をいただいていることにお答えしている。

2. 審議事項

(1) 2026年度事業計画について

○資料5及び6について事務局から説明。

○委員からのご意見、ご質問等

委員

2026年度の企画展の観覧料について、一般は100円、高校・大学生は50円上がるとのことだが、その理由は何か。

事務局

ディスプレイ費や印刷費が高騰しており、歳入と歳出のバランスを取るために、今までの価格では予算編成が難しいという現実的な問題がある。昨今の状況を鑑みると上げざるを得ないことをご理解いただきたい。

委員

昨今の社会状況を見れば致し方ない面もあるが、「致し方ない」という言葉はどこでも使われており、そう言われてしまうと「しょうがない」としか言いようがなくなる。これまで報告があったように、美術館側も工夫していることがたくさんあると思うので、値上げに見合うだけの取り組みを行っていることを伝えなければなら

ない。単に「昨今はしょうがない」と片付けてしまうと、社会全体が暗い気持ちになってしまう。美術館は、そうした状況から離れ、日常を振り返るきっかけを作る場であってほしいので、市民に対して値上げをただ淡々と提示するのではなく、何らかのメッセージがあるといいと思う。

事務局

既に行った連続講演「講演会×鑑賞会」は無料で開催させていただいた。企画展の観覧料を上げざるを得ない状況であれば、例えばイベントの中にこうした無料の講演会を組み込み、少しでも多くの方に美術に触れてもらう機会を設けていくことについて考えていかなければと思う。

委員

市民向けの割引制度はないのか。近隣の方々には頻繁に来館してほしいと思うので、市民割引があることを合わせて提示しても良いのではないかと。

事務局

割引制度は既にいくつか設定しており、それらをより積極的にアピールしていくことで、値上げの影響をフォローしていければと思う。

委員

具体的にはどのような割引があるのか。

事務局

代表的なものにリピーター割引がある。また、文学館とのコラボレーション割引や、展覧会の内容に合わせた独自の割引も実施している。例えば、過去に開催した「自然という書物」展では、自然をモチーフにしたファッションで来館した方を対象に割引を行った。

委員

学校の教育課程でいくと、美術は中学までは必修だが、高校からは選択制となるため、そこで美術との接点が途切れがちである。しかし、昨今は若い世代の来館者が増えている傾向にある。観覧料が1,000円を超えることが一般的になる中、映画館のように「3名以上の来館で割引」としたり、ペアでの来館を対象とした割引を導入したりしてはどうか。

委員

例えばルーブル美術館などの海外施設では、インバウンド客に対して自国民よりも高い料金を設定している例がある。日本では国籍による価格差は設けていないが、美術館の維持管理には多大なコストがかかる。こうした背景を含め、今後の料金設定の在り方について考えていく必要があると感じた。

委員

2026年度の収蔵品企画展1「プレイバック！ミレニアム 1991→2001」について、タイトルが非常に興味深い。内容を簡単に説明してほしい。

事務局

「神奈川国際版画トリエンナーレ」などの国際展が活発に開催された時期にスポットを当てる。当館のコレクションや新たに寄贈された作品を通じ、当時の版画界の流れや、どのようなテーマで作品が制作されたかを振り返る内容である。版画の概念を覆すような大型作品も含まれており、通常の展示とは異なる見応えのあるものになると考えている。

委員

収蔵品企画展2「笑いつづける浮世絵と幕末明治の渦」についても説明を願いたい。来館者が思わず笑顔になるような内容であることを期待している。

館長

町田市立博物館から移管された国内有数の幕末戯画・風刺画コレクションを軸に、以前よりも規模を拡大して展示する。当館所蔵の歌川広重によるユーモラスな名所絵なども組み合わせた構成を予定している。ただし、展示される「笑い」の多くは風刺などのシニカルなものであり、無邪気に心から笑うという性質とは少し異なるかもしれない。

委員

先ほど話題に上がった夏期子ども講座活動報告書「版画で作る自分ワールド！」について、来年度も継続して作成する予定はあるか。

事務局

普及担当の業務であるため、現時点では詳細を把握していない。

委員

開館から40年になるので、普及活動の蓄積を記録として残すよう以前から強く要望してきた。担当者が多忙であることは承知しているが、公立の版画専門美術館としての蓄積がある。今回の活動報告書の作成は非常に好ましい。一度に大規模な記録を作るのは負担が大きいですが、小規模なものであっても継続的に積み重ねることで、将来的に優れた資料となる。継続して取り組めるような工夫を検討してほしい。

事務局

版画担当のみで作成していた紀要について、普及担当の活動についても、簡易的な報告から今回のような充実した内容のものなども、発信およびアーカイブ化してい

くことの価値を認識している。今後の課題として前向きに検討したい。

委員

毎年感じていることだが、他館でも「収蔵品展」という名称を避ける傾向がある。「収蔵品」と謳うと、単に既にあるものを見せているだけという印象を与えかねない。版画美術館は3万点という非常にバラエティーに富んだ収蔵品があるので、例えば雑誌の「特集」のように、より魅力的な打ち出し方ができるのではないかと思う。

事務局

本日の資料では便宜上「収蔵品展」と記載しているが、外部へ公表する際は「企画展」として銘打つ予定である。また、常設展示室についても「常設展」という表現に少し寂しさを感じ、「特集展示」という名称を採用してきた経緯がある。対外的な印象は非常に重要であると認識しており、引き続き検討していきたい。

会長

審議内容について、承認でよいか。
(「異議なし」の声あり)

会長

審議内容を承認とする。

3. その他

委員

今後、芹ヶ谷公園内に予定されている(仮称)国際工芸美術館の建設、アート体験棟の建設、版画美術館の修繕とアート出合いの広場の3件は、同一の予算枠ではないと考える。それぞれの進捗状況について、より具体的に説明を求める。

事務局

予算については、(仮称)国際工芸美術館、版画美術館、アート体験棟でそれぞれ別の項目となっている。工事時期について、現時点では明確なスケジュールを提示できる段階にない。現在具体的に動いているのは版画美術館の改修工事である。設計等を進めており、課内でも改修工事の開始に向けて執務室のレイアウトの検討などを行っている。

部長

改めて状況を整理する。芹ヶ谷公園という敷地内に現在、版画美術館のみが存在しているが、ここに新たに(仮称)国際工芸美術館を建設する。また、擁壁工事を行っている箇所にアート体験棟を別棟として建設し、最終的に公園内には3つの建物が立つことになる。(仮称)国際工芸美術館については、本町田の博物館

で所蔵しているガラスや陶磁器に特化した工芸品を移設する。アート体験棟には、現在版画美術館内にある喫茶けやきや版画工房を移転させる。これにより、版画美術館内の喫茶、版画工房等があった場所は、市民にとって美術館の入口となるようなしつらえに改修する。版画美術館は建物自体が老朽化しており、大規模改修を実施する予定である。

進捗状況については、（仮称）国際工芸美術館とアート体験棟は設計まで完了している。発注を繰り返しているが、施工業者が決定しない段階にある。版画美術館の改修工事とアート出会いの広場については、現在実施設計および基本設計を行っており、完了次第、改修工事を進める。物価高騰への予算対応は行っているが、深刻な人手不足により施工業者との契約が困難な状況である。なお、これらとは別に、公園緑地課が公園全体の整備を担当している。

このほかに、現在、噴水広場の脇からエレベーター棟を設置する計画があるが、工事を施工する事業者が決まらない状況にある。

○ 閉会の宣言（会長）

—以上—